

渡辺 優子

(平政・公明党)

「介護ロボット」の導入

質 介護や福祉の分野におけるロボットは介護の必要な人の自立を支える一方、在宅介護者の身体的な負担を減らす点で威力を発揮する。在宅介護のロボット購入に市で助成をすべき。

答 市で助成とのことだが、介護ロボット導入については、まだ課題が多いと考えている。市としては、まずは現行制度の居宅サービス等を利用していただきたいと考えており、訪問介護や福祉用具の活用等、その方であったサービスが受けられるよう、ケアマネージャー等と連携を図りながら、きめ細やかに対応したい。

「食品ロス」削減

質 食べられる状態なのに捨てられる「食品ロス」。国連は2030年までに一人当たりの食品ロス半減目標を採択。市も食品ロスの削減目標を策定し、フードバンク事業に取り組むべき。

答 能代市一般廃棄物処理基本計画に食品ロスに関する目標は設定していない。次期計画策定の際に、食品ロスの削減についての具体的な行動・取り組み等を検討したい。フードバンク事業は、食料の保管場所、受益者の確認やフードバンクの確保など課題は多く、現状では今あるフードバンクとの連携を進めたいと考えている。

その他の質問事項

○私の思ふ中綴り

小林 秀彦

(日本共産党)

農業委員会に関する法改正

質 法改正は、農業委員の公選制を廃止し「意見の公表、建議」を業務から削除するなど、制度の根幹を変える内容である。農業委員の選出が任命制となり、公平性、透明性は保たれるか。

答 法改正に伴い、農業委員の選任は市長が議会の同意を得て任命することになる。選任に当たっては農業者等に対し委員候補者の推薦を求め、募集を行い、その情報を公表し、結果を尊重しなければならぬとされている。これは公選制にかわる代表性を担保する仕組みで、法の主旨に従い、公平な任命を行っている。

高校卒業まで子供医療費助成の拡充を

質 高校生を持つ世帯は、教育費や部活などの費用を初め家計の負担が大きくなる世帯である。子育て世帯の負担軽減のため、子供の医療費助成を高校卒業まで拡充できないか。

答 今年8月から、小学校卒業までの助成対象を中学校卒業まで拡大するほか、所得制限を撤廃し、県の助成対象とならない児童に対して市単独事業で助成する。これにより、一般財源が1700万円増加する見込みで、対象を高校卒業までとすると、さらに2600万円が見込まれることから現時点では高校卒業までの拡充は考えていない。

その他の質問事項

○能代河畔公園整備事業

○子供の貧困対策

○イオン出店

議会の主な動き

4月5日	議会だより編集委員会
4月12日	議会だより編集委員会
5月9日	議会運営委員会
5月18日	議会運営委員会
5月20日	産業建設委員会協議会
5月25日	文教民生委員会協議会
5月30日	会派代表者会議
6月2日	議会運営委員会
6月7日	議会運営委員会
6月13日	議会運営委員会
6月14日	会派代表者会議
6月15日	議会運営委員会
6月16日	議会だより編集委員会
6月20日	各常任委員会
6月22日	庁舎整備特別委員会
	議会運営委員会
	6月定例会閉会



6月定例会の様子